

## はじめに

世界的な感染症の動向としては、エボラ出血熱、鳥インフルエンザ、中東呼吸器症候群(MERS)、ジカウイルス感染症などの「新興感染症」が、世界各地で発生しています。

また、地球温暖化の進展に伴うヒトスジシマカの生息域の北上や感染症媒介節足動物の分布可能域の変化なども加え、感染症の発生動向は、今後ますます拡大、変化、複雑化していくことが予想され、いかなる国においても安全とは言いきれません。

さらに、我が国では、今年は6月にG20大阪サミット、9月にラグビーワールドカップが開催され、来年には東京オリンピック・パラリンピックと、訪日外国人及び旅行者の急増が見込まれており、今後も感染症に対しては、警戒を強めていく必要があります。

国内の感染症状況としては、風しんは一度減少傾向にありましたが、昨年から今年にかけて、患者数が増加しています。麻しんは、今年に入って海外で感染した患者を契機とした国内感染の拡大事例が散見されています。梅毒は、平成22年以降増加傾向が見られています。

本県でも同様に風しん、麻しん患者の発生や、梅毒患者の増加が見られており、その上、結核患者の罹患率も他の都道府県と比較して高めで推移しています。

感染症発生動向調査事業は、様々な感染症対策を的確に行うに当たり、明確なエビデンスとして利用される大変重要なものであります。そのため、実施主体である当保健製薬環境センターの役割と責任は、ますます重要であると考えております。感染症対策の一層の強化と充実を図るため、海外からの情報を含め健康危機に関する情報を常に把握し、今後も状況の変化に応じ、迅速かつ的確な調査と情報提供を行えるよう、疫学情報部門と検査部門との連携のもと、事前対応型の業務推進に努力してまいります。

このたび、2018（平成30）年における徳島県の感染症情報を整理し、年報を作成しましたので、感染症対策の資料として御活用いただければ幸いです。

なお、この事業の実施に当たりましては、県内各医師会、定点医療機関をはじめとする関係者の御協力をいただいております。この場を借りて深く感謝いたします。

2019（令和元）年12月  
徳島県立保健製薬環境センター  
（徳島県感染症情報センター）  
所長 上岡 敏郎

## 目 次

1. 感染症発生动向調査について	1
2. 全数把握対象感染症患者報告状況	
(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況	5
(2) 各疾病の届出状況	
① 結核	6
② 腸管出血性大腸菌感染症	7
③ パラチフス	8
④ 重症熱性血小板減少症候群	8
⑤ つつが虫病	9
⑥ 日本紅斑熱	9
⑦ レジオネラ症	9
⑧ アメーバ赤痢	10
⑨ ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	10
⑩ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	10
⑪ 急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）	11
⑫ 急性脳炎	11
⑬ クロイツフェルト・ヤコブ病	11
⑭ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12
⑮ 後天性免疫不全症候群	12
⑯ 侵襲性インフルエンザ菌感染症	12
⑰ 侵襲性肺炎球菌感染症	13
⑱ 水痘（入院例）	13
⑲ 梅毒	13
⑳ 播種性クリプトコックス症	15
㉑ 破傷風	15
㉒ 百日咳	15
㉓ 風しん	17
㉔ 麻しん	17

### 3. 定点把握対象感染症患者報告状況（週報）

(1) 過去5年間の報告状況	18
(2) 各疾病の報告状況	
① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	19
② RSウイルス感染症	20
③ 咽頭結膜熱	21
④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22
⑤ 感染性胃腸炎	23
⑥ 水痘	24
⑦ 手足口病	25
⑧ 伝染性紅斑	26
⑨ 突発性発しん	27
⑩ ヘルパンギーナ	28
⑪ 流行性耳下腺炎	29
⑫ 急性出血性結膜炎	30
⑬ 流行性角結膜炎	30
⑭ 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）	31
⑮ 無菌性髄膜炎	31
⑯ マイコプラズマ肺炎	32
⑰ クラミジア肺炎（オウム病を除く）	32
⑱ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）	33

### 4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

(1) 過去5年間の報告状況	34
(2) 性感染症患者報告状況	
① 性器クラミジア感染症	34
② 性器ヘルペスウイルス感染症	35
③ 尖圭コンジローマ	35
④ 淋菌感染症	36
(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況	
① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	37
② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	37

## 5. 病原体検査検出結果

- (1) ウイルス検査結果 . . . . . 38
- (2) 細菌検査結果 . . . . . 40

## 6. 資料 . . . . . 45

- (1) 全数把握対象疾患の患者数
    - 付表1：2018（平成30）年全数把握対象疾患の月別患者数 . . . . . 46
    - 付表2：2018（平成30）年全数把握対象疾患の保健所別患者数 . . . . . 47
  - (2) 定点把握対象疾患（週報）の患者数
    - 付表3：2018（平成30）年定点把握対象疾患（週）の週別患者報告数 . . . . . 48
    - 付表4：2018（平成30）年定点把握対象疾患（週）の週別定点あたり患者報告数 . . . 50
    - 付表5：2018（平成30）年定点把握対象疾患（週）の保健所別患者報告数 . . . . . 52
    - 付表6：2018（平成30）年定点把握対象疾患（週）の保健所別定点あたり患者報告数 54
    - 付表7：2018（平成30）年定点把握対象疾患（週）の年齢階級別報告数 . . . . . 56
  - (3) 定点把握対象疾患（月報）の患者数
    - 付表8：2018（平成30）年定点把握対象疾患（月）の月別患者報告数 . . . . . 57
    - 付表9：2018（平成30）年定点把握対象疾患（月）の年齢階級・性別報告数 . . . . 58
- (参考資料) 徳島県感染症発生動向調査事業要綱